

この世界で。この街で。このじぶん。

# YMfg



Vol. 0

三都物語。

山口・広島・北九州

YMFG-ZONE からミライをのぞむ!!

# じぶんの物語を つまらなく感じたとき。

地方都市に生まれた。  
じぶんにとっては、真ん中だった街。

地方と意識したのは  
いつのときからだったのか。  
世界の果てしなさを知ったとき？  
じぶんの物語をつまらなく感じたとき？  
ああそんなことは誰にもあるよと、人は言う。

それからいろいろありまして。  
いま、地方と世界は近くなった。  
きもちの問題ではなくて、  
望めば動けばそうなる可能性。  
望んで動くことが  
リアルに大事になってきた。

地方都市という言葉の響きさえも、  
新たな響きへ。さあどう生きる。

この世界で。  
この街で。  
このじぶん。

**YMfg**

この世界で。  
この街で。  
このじぶん。

**YMfg**

# YMFG

はじめまして。こんにちは。  
YMFGのエリア・マガジンです。

YMFGは山口銀行、もみじ銀行、北九州銀行を傘下に持ち、下関市に本社機能を置く金融グループです。YMFGの三拠点、山口、広島、北九州の3エリアを「三都」と呼び、それぞれの地域の魅力を発見し、深ぼっていく。そんな目的を持ってこのメディアは誕生しました。住む人が自慢できる。来る人がワクワクする。町に薫風を吹き込むようなマガジンを目指して。末長く、よろしくお願ひします。

vol.0 CONTENTS

- 06 **三都物語。**  
日本全国1,741都市を巡った  
仁科勝介が再び旅に出る！  
三都オン・ザ・ロードストーリー。
- 12 **ランチの正解** vol.000
- 14 **YMFG Zone Interview**  
「まちづくり」をする銀行ってどういうことですか!?  
YMFG 椋梨敬介CEOに聞きました。



写真 | 大森めぐみ (株式会社 サン・アド)

## COVER STORY

高口 奈月 NATSUKI TAKAGUCHI

Q: 出身はどちらですか? 地元のいいところは?  
A: 広島県出身で在住です。カーブの話で誰もが盛り上がる場所。でも、カーブが負けた次の日は、宿題が増えたりしたこともありました… (笑)。



YMFG ZONE STORIES

広島・山口・北九州。隣接しながらも異なる文化を持ち、車で走れば意外とあつという間。陸と海で繋がらうこの3つのエリアの魅力が、住む人にも、来る人にも、新しく発見されることを願って。「YMFG ZONE」と名付け、三都のヒト、モノ、コトを紡いで発信していきます。



特集

# 三都物語。

日本全国1,741都市を巡った  
仁科勝介が再び旅に出る！  
三都オン・ザ・ロードストーリー。

日本全国1,741市町村をスーパーカブで巡った写真家「かつお」こと仁科勝介さん。原付バイクからレンタカーへと乗り換え向かったのは広島、山口、北九州。西へ東へ、行きつ戻りつ、総移動距離1,050キロものロードトリップだ。かつおさんが旅の中で再発見した「三都」の魅力とは？

写真 | 仁科勝介、文 | 高橋直貴



海と山を、同じ視界に収めてみよう。  
自然と人が仲良く暮らすところ・山口。



元乃隅神社から日本海を望む。三方が海に囲まれた山口県では表情豊かな海の景色を楽しむことができる。

ガイドブックには載っていない。  
広島の日常が発するたおやかなエネルギー。



大学時代を広島で過ごしたかつおさんは平和記念公園の中にある原爆供養塔を訪れた。元安川を挟んで「平和の町」の日常を撮る。



山口情報芸術センター「YCAM」は日本有数のアートのスポット。併設された山口市立中央図書館を覗き、隣のスタバで一休み。晴れた日は芝生で寝転がる人もちらほら。



下関の唐戸市場といえば「ふく」が有名だが、そのほかにも近海で水揚げされた新鮮な魚が豊富。秋から冬にかけて旬を迎える「白身のトロ」、ノドグロは山口の名産だ。



朝5時にホテルを出発し下関の海沿いの道を歩く。対岸には朝霧がかかる九州が。この景色を見ながら過ごす青春時代はどんなものだろうか。歩き疲れた帰りのバスでの一枚。



尾道駅前、アーケード商店街の出口やや手前に「紙片」はある。空間いっぱい詩が満たされたような店内に落ち着いた時間が流れる。旅先の一冊は気の利いた本屋で選びたい。



かつおさんがカメラを向けるのは「生活の景色がある場所」。それは旅先でも変わらない。広島駅前を行き交う人を見つめながら、何を感じたのだろうか。



散歩中、町中では猫に出会うことが多かった。自然に囲まれながらもほどよく都会な広島県は住み心地がいい。猫にとっても暮らしやすい町、ということだろうか。



町と山と工場。反対側には海が広がる。この町で生活するために必要なすべてを濃縮したような景色を見下ろす。

三都で豊かに暮らす、楽しむ、考える。

「衣・食・住」無限大！三都で生きる人たちに教わった、本来の肉体的な豊かさってきつとこういうこと。



1. 平和記念公園内にある献花台はかっおさんたつての希望で訪れた。人の目を通すと、違った町の姿が浮かび上がる。2. 山口市中心商店街は新しいお店が次々オープンするエリア。紹介されるまま、数珠つなぎに食べ歩いた。3. ロードトリップならば移動時間には余裕を持っておきたい。BGMのセレクトも忘れずに。4. 小倉駅前の公園ではスケーターが伸び伸びと滑っていた。懐の深い港町。5. 福岡のうどんは「ウエスト」だけじゃないことをドキドキうどんは教えてくれる。見た目に反してあっさりめの出汁。

旅に出ると、ついせかせかせかしてしまふ。このルートなら、まずここに行つて、それならあのお店も寄れるな……と、気付けば予定はぎゅうぎゅうに。時間が足りないのは旅の常だけど、何かに追われるようでもちよつと窮屈な気もする。「旅は人生を豊かにする」なんて言うけれど、急ぎすぎでは「そこならでの豊かさ」を見落としてしまいかねない。だけど、三都を巡る取材旅行中、僕たちは全くせかせかしくなかった。行きたい場所やお店はたくさんあったけど、もうちよつとゆっくり見て回ろうとか、また次回の楽しみにしておこうとか、そんな気分になったのだ。それは、この土地で出会った人々の穏やかな生活の様子に影響を受けたからかもしれないし、ただただ楽しかったからかもしれない。

旅に出ると、ついせかせかせかしてしまふ。このルートなら、まずここに行つて、それならあのお店も寄れるな……と、気付けば予定はぎゅうぎゅうに。時間が足りないのは旅の常だけど、何かに追われるようでもちよつと窮屈な気もする。「旅は人生を豊かにする」なんて言うけれど、急ぎすぎでは「そこならでの豊かさ」を見落としてしまいかねない。だけど、三都を巡る取材旅行中、僕たちは全くせかせかしくなかった。行きたい場所やお店はたくさんあったけど、もうちよつとゆっくり見て回ろうとか、また次回の楽しみにしておこうとか、そんな気分になったのだ。それは、この土地で出会った人々の穏やかな生活の様子に影響を受けたからかもしれないし、ただただ楽しかったからかもしれない。

出ている地元の人たちはきつとお店に行くというより「あの人に会いに行く」という感じなんだろう。一緒に三都を巡ったかつおさんが「三都にはおかいりを言ってくれるお店がたくさんある」と言う。もう一度足を運びたいいくつものお店に出会うことができた。気になるお店に次々飛び込んでいったけど、それでも○○○のマップにメモしていたお店リストは半分も消化できていない。行く先々で紹介してもらったスポットを追加していったら、むしろ旅の前より宿題が増えていた。だけど、打ち込む指は喜んでる。取材先で三都のテーママガジンだと説明すると「え？ めっちゃ広いですね」という反応が多かった。確かに広い。だけど「遠い」という人は一人もいなかった。ある人は、週末によく九州から山形の角島まで海水浴に行くと言っていた。道中にある美味しい海鮮料理屋が「鉄板」だとも。広いけど、遠くはない。1050キロの取材旅行を終えて、その意味がわかった気がする。もしかして、「三都のロードトリップ」って、新しい旅のルートの発明なのかも？ その奥深き魅力を、これから発見していこうと固く誓った。素直に言うと、ただまた来たってだけ。

仁科勝介、旅を終えて～「居心地の良さが、人と街の距離を縮める」。



仁科勝介 KATSUSUKE NISHINA 1996年、岡山県倉敷市生まれ。広島大学経済学部卒。在学中に全1,741の市町村巡りを達成。2020年8月には旅の記録をまとめた本、『ふるさとの手帖』(KADOKAWA)を出版。写真館勤務を経て独立。

未知の土地を訪れるときは、いつでも緊張する。それは、道端を歩くおじいちゃんも、自転車を漕ぐ高校生も、この街に住んでいて、四季を知っているけれど、僕はその日々を知らないから。でも、街を知り尽くせなくても、広島市の三角州の川沿いを歩きながら、下関市から門司の街を眺めながら、北九州市の都市高速を走りながら、「ここにしかない景色や暮らしぶりがある」と感じられたことが嬉しかった。それに、出会った方々はみなさん「いつでもおいで」と笑顔で言ってくれた。心の豊かさとは、身近な「ありがとう」や「また会おう」といった、ちいさな居心地の良さの積み重ねだ。居心地の良さが街をまたいで増えていけば、三都の距離も短くなって、繋がりがあって、気軽に往来できるようなになる。三都ではそれが成り立ってゆく。そう実感できた旅であった。



この旅ではたくさんのいい道に出会った。門司港近くの道路は歩道のレンガや対岸の下関の景色、絶妙なカーブが心に残っている。普通の道が美しいと、その街が一層好きになる。



お酒好きなら夕暮れ時から屋台へ。サラリーマンが集まるお店なら間違いない。小倉は飲み屋が多い。それも、味のあふれる個人経営の名店が。旅先では勘を頼りにふらっと入ろう。



小倉の中心にある町の背骨・巨港市場。180mのアーケードに昭和30年代の建築が並んでいる。2022年には二度の火災に見舞われた。一日も早い復興を願って。



山口県山口市巾着町6-2  
 ☎ 090・3747・3510  
 ☉ ランチ営業/水～土曜日 11:00～14:00  
 (LO13:30)、夜営業/火～土曜日 17:00～22:00  
 (LO21:30)、日曜日は11:00～18:00の通し営業

**Data**  
 カレーのランチプレート (1,000円)。ホルモン屋のDNAを感じるサイドメニュー「かっぱ肉の素揚げ」はお酒がぐいぐい進む味。実は、さいさんはレアなクラフトビール「宇宙ビール」山口唯一の取扱店。ランチの正解は「酒場の正解」でも間違いない。

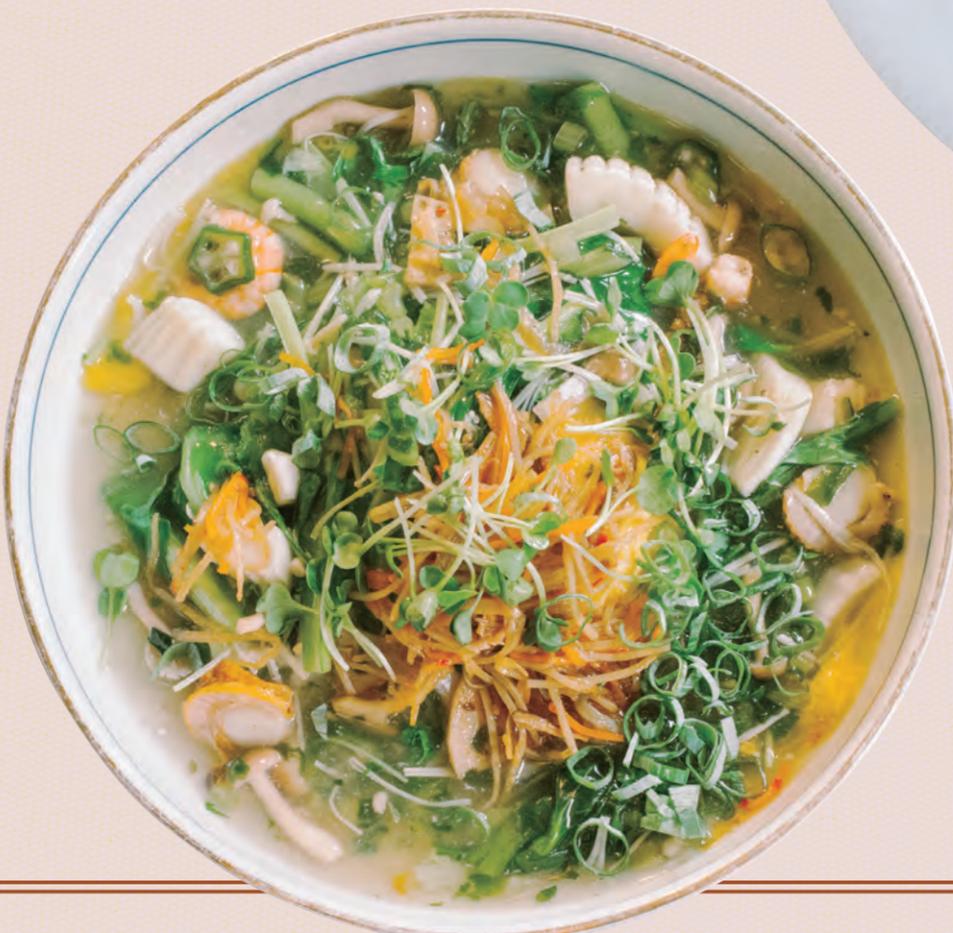
## 山口 路地裏ごはん さいさん

元ホルモン屋がつくる  
母直伝の本格タイ料理。

“さいさん”ことオーナーの斉藤さんは貿易関係の仕事から華麗に転身、2018年、山口市中心商店街にホルモン酒場「さいさん」をオープンさせた。そして、現地で学んだというお母さま直伝のタイ料理を提供するお店に生まれ変わったのが2020年。以降、昼も夜も近隣の人が集う町のハブとなった。ランチは単品メニューのほか、日替わりカレーや肉料理をメインに据えたプレートが楽しめる。ガバオか！パッタイか？と頭を悩ませながら、かつおさんが頼んだのはカレーのランチプレート。「結構辛いですよ」という一言が添えられたキーマは、綺麗な盛り付けとは裏腹に、しっかりとスパイスの風味を感じる。そのままでももちろん美味しいが、自家製ブリックソムナム（唐辛子の酢漬け）をかけてさっぱり「味変」するのも良い。店も料理もいろんな楽しみ方ができる。かつおさんが「また来たくなる」と言う意味がよくわかる。



店内に溢れる雑貨は「お客さんが飾ってくれた」のだから、いかに愛されているかがわかる。さいさんは近隣の飲食店の方々からも慕われ、飲食組合の山口支部副部長を務める。まさに、この町に、この人あり。



## 北九州 カフェそらあるき

オーナーが「偶然」生み出した  
この店だけの味わい。

ふわふわ卵の上にかいわれ、きのこ、ねぎなど10種以上の野菜、そして和風出汁のきいたあんがたっぷりとおん。あっさりなのに食べ応えのある「海鮮あんかけオムライス」(850円)は初めての味わいなのに、どこかほっとするカフェそらあるきの看板メニューだ。カフェご飯だからといって侮るなかれ。味はもちろん一皿で満足すること間違いなし！な食べ応えで、食いしん坊の期待を裏切らない。お腹が満たされたなら、注文後に煮出すというこだわりの紅茶で一息つきたい。甘いものが別腹なあなたは、自家製スイーツも頼んでしまおう。そらあるきは昼夜通し営業なので、旅の予定を詰め込みすぎってしまった遅めランチでもOK。カクテルなどドリンクメニューも充実しているので、早めに飲み始めてもちろん「正解」だ。いつでも受け入れてくれる懐の深さは、マスターの人柄によるものか。

旅先ランチは「美味しさ」も大事だけれど、せっかくならその町らしい一皿を選びたい。そんなリクエストをしたところ、かつおさんが教えてくれたのはジャンルを超えた味と、名物オーナーが魅力の3店舗。まずは腹ごしらえ。旅の計画はランチ後でも間に合います。

写真 | 仁科勝介、文 | 高橋直貴



## 写真家・仁科勝介が選ぶ ランチの正解

vol.000

### 広島 LOPEZ ロペズ

元フレンチシェフがつくる  
南米スタイルのお好み焼き。

「HOLA！」と南米風の挨拶とともに入店してきたのは地元のおじいちゃんおばあちゃん4人組。ロペズさんのお好み焼きを求めて毎週通っているという常連さんだ。ハワイでフレンチシェフとして腕を振っていたオーナーのロペズさんがここ広島でLOPEZを開いたのは26年前。名店「八昌」を4ヶ月で免許皆伝となった本格派だ。LOPEZのお好み焼きは厚さ3ミリの特注鉄板で16分かけてじっくり焼き上げる。こうすることで水分が蒸発し、キャベツの甘みがぎゅっと凝縮されるのだ。正統派を味わいたいならこのままでも良いが、ロペズ流を味わうならトッピングは必須。ミックスチーズや海苔がまぶされた餅も良いが、辛いもの好きならハラペーニョが大正解。僕らがロペズさんの話を聞いているうちに常連さんたちはべろりと平らげていた。80歳を迎えても元気な秘訣はグアテマラ仕込みのお好み焼きというわけか。

広島県広島市西区楠木町1-7-13  
 ☎ 082・232・5277  
 ☉ ランチ営業/火曜日・金曜日 11:30～14:00 (LO13:45)、夜営業/月～金曜日 16:30～23:00 (LO22:30)

**Data**  
 そば肉玉ハラペーニョトッピング (920円)。お腹に余裕のある方はサイドメニューの南米料理を。「チリリオグランデ」(豆と牛肉の煮込み)もおいしいけど、より現地の風味を感じたいならタンシチューがおすすめ。



ロペズさんが手際よく調理する横から「広島では鉄板の上で食べるのよ」と常連さん。旅行者にも優しいお店は、旅の強い味方。ランチ営業は火曜日・金曜日のみだけど、タイミングが合うなら広島ランチはここで決まり。

福岡県北九州市小倉北区  
 清水1-14-16  
 ☎ 050・5589・6343  
 ☉ 火～日曜日 12:00～23:00

**Data**  
 海鮮あんかけオムライス (850円)。その他、松浦さん自らが腕を振るう豊富なランチメニューや一品料理がいつでも楽しめる。ユニークなレシピはなんと「偶然生まれた」という。夜はライブイベントなどを行うことも。



オーナーの松浦勝也さんは近隣で3店舗を経営中。小倉地域を西から盛り上げたいと、ものすごいスピードでアイデアを形にしている。いずれも自分たちで内装を手がけているから驚きだ。町の変化をここから感じたい。

## 「まちづくり」をする銀行って どういうことですか!?

YMFG 棕梨 敬介 CEO に聞きました。

写真 | 玉村敬太、文 | 高橋直貴

—— 棕梨社長、初めまして。まず、YMFG が三都（広島、山口、北九州）をテーマにしたエリアマガジンを創刊したのはなぜですか？

私たちが目指す未来を、この地域に住むみなさまに共有したいというのが最大の理由です。YMFG は「地域の豊かな未来を共創する」というパーパスのもと、まちづくり事業、産学連携プロジェクト、デジタル技術の活用などさまざまな形で地域の活性化に取り組んでいるんです。そんな私たちの指す未来を楽しく、イメージしやすい形で伝えていきたいと考えました。

三都は人口500万人、GDPは21兆8000億円超。これはハンガリーの国家GDPと同レベルで、経済的にも文化的にもポテンシャルが高いエリアです。しかし、県外から来たお客さまをご案内すると「こんなに素敵な場所だったんだ」と驚かれることが多いんです。産業、文化、観光資源、暮らしなど、それぞれの街の魅力をみなさまと共創していくための「器」としてこのメディアを立ち上げました。

—— 銀行がまちづくりに取り組むのはなぜなのでしょう？

街が発展していくことで、資金が循環し、さらに発展していく。街と銀行の関係はそのようなものなんです。三都の発展なくして、YMFG の成長

はありえません。地域に貢献していくことそのものが、YMFG の使命なんです。

—— 棕梨さんから見た三都の魅力とは？

山口は日本海、瀬戸内海、響灘、3つの海に面し、三都の中でも特に自然に恵まれた街。「瀬祭」で知られるように日本酒の産業も盛んで、それも若い世代が主体となっています。広島の路面電車が走る街並みは、古き良き伝統と現代的な都市生活の融合を象徴していますよね。また造船業を営む企業を中心に、沿岸地域も盛り上がっています。北九州は製鉄業をはじめとする工業地帯として栄えてきた国際都市。大正・昭和の建築物が残り、若い方々には異国を訪れたかのような楽しさがあるでしょう。コンパクトシティ化が進み、子育て世代にもやさしい。いずれも、ハード、ソフトの両面で魅力を持っている稀有な街です。

私は山口に生まれ、幼少期は角島や土井ヶ浜で泳ぎ、学生時代は広島で育ちました。今も時々、学生時代から通っている「みっちゃん」へお好み焼きを食へに行きます。社会人生活をスタートさせたのは関門地域で、初めて血倉山から眺めた景色を今も覚えています。一言で言えば、とにかく大好きなんです、この街が。

—— 10年後の三都は、どのような姿を  
していると考えていますか？

日本国内の方にとっては三都といえば、東京・名古屋・大阪を思い浮かべることが多いでしょう。それらにとって代わる『新・三都』を目指したいですね。また、コロナで途絶えてしまっただけでなく、海外観光客の行き来が、徐々に減りつつあります。広島は平和都市として欧米からの来客が多く、九州は台湾との直通便が運航していることもありアジア諸国との往来が盛んです。間に位置する下関も、旅客船が唐戸市場へ訪れてくる。つまり、それぞれの街が窓口になって世界と繋がっているんです。この三都をひと繋ぎの「ZONE」として発信することができれば、世界からも一目置かれるエリアになると確信しています。

三都には、食、文化、芸術、音楽、スポーツ、歴史と魅力的なコンテンツが集積しています。同時に、この街で生活している方々がまだ気付いていない魅力もたくさん眠っていると思います。このメディアを通じてその魅力を再発見し、伝えることができたならば、より豊かな暮らしや体験が提供できるのではと、わくわくしています。この本を手にとったみなさまも、ぜひ一緒に考え、つくっていったらいいと思っています。皆様のご感想を楽しみにお待ちしております。

### 棕梨敬介 KEISUKE MUKUNASHI

早稲田大学大学院の商学研究科経営経済学専攻修了後、1995年山口銀行入行。2019年より山口フィナンシャルグループ執行役員。2021年、同CEOに就任。出身は下関で、学生時代を広島で過ごし、関門地域で社会人生活をスタート。金融で地元を盛り上げていきたいと、多くのまちづくり事業に取り組んでいる。趣味はランニング、週1回は欠かさず走る。



### YMFG

YMFGは、株式会社山口フィナンシャルグループの略称。山口県下関市に本社を置く金融持株会社。山口銀行、もみじ銀行、北九州銀行を傘下に持ち、三都エリアに根付く。「地域の豊かな未来を共創する」というパーパスのもと、従来の金融サービスの提供に加え、まちづくり事業、産学連携プロジェクト、デジタル技術の活用など地域の活性化に取り組む。



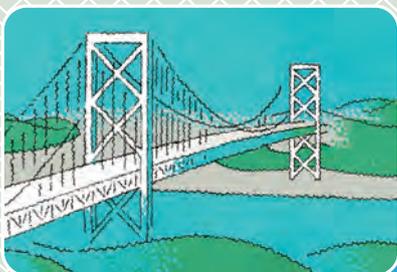
三都の魅力は果てしない…。  
では、次の旅まで「また来ます」。

5日間の旅の道中、「美味しい」という言葉を  
最もたくさん口にしました。その証拠に体重は2キロ増。  
そして、二番目に言ったのは「また来ます」。  
旅を終えて思うのは、三都の魅力は果てしないということ。  
食、文化、商業。それぞれに特色があり、そして、人が温かい。  
一筆書きのロードトリップで、そんなことを体感しました。  
次号、さらに三都の魅力を深掘りします。  
町の情報もお待ちしています。  
次の旅が今から楽しみで仕方ありません。



Hiroshima

広島

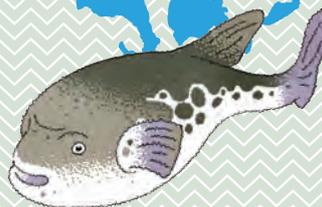


Kitakyushu

北九州

Yamaguchi

山口



広島 | 尾道を走る国鉄115系電車、街の  
景観と相まってタイムスリップしたよ  
うな感覚。名物・お好み焼きには麵が  
欠かせない。山口 | トラフグの刺身と  
唐揚げは絶品。メニューには「ふぐ」  
と書いてあるけど、オーダーの時には  
「ふぐ」と発音していた。関門海峡の雄  
大な景色は、この場所で体感したい。  
北九州 | こってりだけれど、研ぎ澄ま  
された美味しさのラーメン。レトロで  
歴史を感じる、門司港の駅舎も必見だ。

イラスト | 宮岡瑞樹

YMfg

発行 | 山口フィナンシャルグループ  
お問い合わせ窓口 | 総合企画部  
広報 | IR室 河内・清水・竹内  
住所 | 山口県下関市竹崎町4丁目2番36号  
電話 | 083-223-5545

企画・制作 | (株)マガジンハウス『MCS(マガジンハウスクリエイティブスタジオ)』、  
プロデューサー | 戸高良彦、編集ディレクター | 長嶋太陽、ライター | 高橋直貴、  
アートディレクター | 加納大輔、デザイナー | 山城絵里砂、小林泰和(カバー)、  
ECD | 川口清勝(TUGBOAT)、PM | 中村潤一((株)ドラゴン東京)、  
校正 | 阿部進、DTP | (株)ローヤル企画、印刷 | 凸版印刷(株)

0号について  
アンケートは  
こちらまで!

